

地域再生とまちづくり

各都市が目指すものは

<第28回>

鯖江市は福井県のほぼ中央に位置し、北は福井市、南は越前市に接している。主な産業は眼鏡、繊維、漆器であり、人口約7万人のものづくりのまちとして発展している。特に眼鏡の知名度は高く、国内の約90%、世界の約20%にあたる眼鏡フレームが鯖江市において生産されている。

現役女子高生が活動

鯖江市役所JK課は、14年に実験的にスタートした市民協働推進プロジェクトである。さらに東洋経済新報社が毎年公表する「住みよさランキング」で6

福井県鯖江市・「ゆるさ」プロジェクトを推進

また、福井市のベッドタウンとしての一面も有し、県内で唯一の人口増加自治体でもある。さらに東洋経済新報社が毎年公表する「住みよさランキング」で6

り、条例等に基づく正規の行政組織ではない。メンバーは鯖江市在住か市内の高校に通う現役女子高生(高専1~3年生含む)。活動内容はJK課メンバーが中心となり、市民、団体や地元企業、大学などと連携・協力しながら、自分たちのまちを築く企画や活動を行うことである。

これまで主な活動として、図書館の空席を探すスマホアプリ開発、スイーツ商品企画、ゴミ拾いイベントなど2つの副次成果があると思

が挙げられ、活動の輪は広がっている。この活動が評価され、15年度ゆるさまちづくり大賞では鯖江市が総務大臣賞を受賞するに至った。私見だが、JK課活動には2つの副次成果があると思

田舎ぐらしをゆるく体験してもらうというスタンスだ。期間は15年10月~16年3月の半年間で、参加者は鯖江市が用意した3LDKの市営住宅2戸に家賃無料で共同生活を送る。この半年間で全国から男性10人、女性5人の計15人の若者が参加した。期間も自由で「1カ月だけ」「週末だけ」という参加者もいてゆるさが垣間見える。期間終了後、男性6人、女性1人の計7人が移住継続という結果を出している。第2期プロジェクトの構想はあるものの、住宅確保の問題からまだ見処はたっていない。



④ JK課のオリジナルスイーツ販売
⑤ JK課とゆるい移住、高年大学による意見交換会の様子
(写真は全て鯖江市ホームページより)



鯖江市役所JK課スタートアップ記者会見



⑥ 14年のJK課プロジェクトの会見風景
⑦ JK課ごみ拾い企画での活動の様子

「JK課」と「ゆるい移住」

若者転出防止のニッチ作戦

う。まず女子高生が地域活動に携わることで行政職員らに良い意味での「ゆるい」視点が生まれること。次に活動メンバーの鯖江市に対する興味・理解が深まり、就職時などで地元志向が高まることだ。

気軽に田舎体験

こちらのゆるい移住は、ガチガチの移住政策に乗り切れない層にターゲットを絞ったプロジェクトである。従来の「ターン事業や移住促進事業と違って、地元企業への就職などを押しつけることなく、まずは気軽に住んでみて

(日本不動産研究所福井支所、不動産鑑定士宮岡広英)